

# 提 案 概 要

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 社会部会

**1 提案テーマ** 『だれもが興味をもち、積極的に授業に参加し表現できる社会科をめざして』  
～体験や資料を活用して、当時の人々の思いや考えをイメージできる授業づくり～

**2 単元(題材)** 明治の国づくりを進めた人々

**3 学年** 第6学年

**4 平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり**

②問題解決的な学習や児童の主体的な学習を重視し、言語活動の充実を図る教材並びに学習指導と評価の工夫・改善

## 5 学習指導要領との関連

第2章 第2節 社会 第2 各学年の目標及び内容〔第6学年〕 2内容

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを利用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

キ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。

## 6 実践に向けての課題意識

第6学年で子どもたちははじめて日本の「歴史」を授業で習う。新しい学習分野ということもあり、子どもたちの歴史の授業に向かうモチベーションは高い。昨今のテレビ番組や書籍、ゲームなどで日常的に歴史に触れる機会が多いことも、子どもたちが歴史に興味をもつことに一役かっている。

なかでも戦国時代や江戸時代は、登場人物の活躍の様子や業績などがドラマチックに語られ、数多く伝えられていることもあり、子どもたちも興味をもって授業に臨むことができている。しかし、幕末から明治時代になると、学習内容や取り上げる人物が増え、子ども向けの書籍やゲームなども少ないため、子どもたちは興味をもちにくくなる。また、幕末から明治時代にかけては、学習内容が国内だけにとどまらず、外国でのできごとや、日本と外国の関係など、学習面でおさえなければならない点も多く、教える側もポイントを絞るのが難しい。明治時代は日本の歴史の大きな転換期であり今の日本の生活にも大きな影響を与えている時代だからこそ、子どもたちに興味をもって意欲的に学習に取り組んでもらいたい部分である。そこで、子どもたちが興味をもって授業に参加できるように、「体験できる授業」と「資料を活用して、当時の人々の思いや考えをイメージできる授業」を中心に学習活動を行った。

## 7 実践の概要

昨年世界遺産に登録された富岡製糸場は、殖産興業と富国強兵を理解するにあたって取り組みやすい資料になるのではないかと考え、本単元では「富岡製糸場」を焦点化した授業を行った。世界の技術を取り入れて作られた富岡製糸場は、官営工場として、国が力を入れて管理していたこともあり、当時としては恵まれた待遇や労働環境にあったことが、資料を通してわかってくる。当時、貿易(輸出)の中心だった生糸の生産を行っていた点も理解しやすく、貿易で得られた外貨で軍事力を強化した点もおさえやすい。今回は、ただ資料を提示するだけではなく、実際に繭から糸を繰る活動を取りいれたり、富岡製糸場で働く人々の気持ちを考えたりして、当時の人々に対する思いや考えを深めながら時代の流れを理解できるように心がけた。

## 8 成果と課題

本単元でも子どもたちは興味をもって授業に取り組むことができた。授業後には子どもたちが自ら調べ学習に取り組む姿や、普段はあまり歴史の授業に意欲的に参加することができない子どもが、ハンカチなどのシルク製品を持ってきてクラスみんなに広める光景などが見られた。実際に子どもたちも当時の人々の生活や気持ちを考える場面は楽しかったようで、提出されたノートやワークシートからも意識の高さを読み取ることができた。一方で、より一層子どもたちに興味をもたせる方法もあったのではないかと考えている。特に、授業で子どもたちに提示する資料を探す場面で、指導者として適切な資料選びができたかどうか自信をもてないことが多かった。

## 9 予想される協議の柱

- ・より学習意欲を高める学習指導の在り方
- ・言語活動を充実させる年間を通した取組について